

大正十一年石川縣下ニ發生セル毒蛾ニ就テ

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-04 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/30767

十全會雜誌

第二十八卷第七號(第二百十號)

大正十三年七月一日發行

原 著

大正十一年石川縣下ニ發生セル毒蛾ニ就テ

金澤醫科大學皮膚科教室(主任土肥博士)

馬 詰 將
宮 尾 眞 吉

大正十一年五月末ヨリ石川縣下大聖寺町附近ニ、一種ノ毒蛾發生シ、之ニ觸ルモノハ、一種ノ癢痒性皮膚炎ヲ發起スル旨、新聞紙上ニ散見セリ。サレド未ダ其患者ヲ見ズ、又毒蛾ナルモノヲモ見ザリキ。越ヘテ六月下旬ニ至リテ本院皮膚科外來患者中ニ於テ一名ノ本毒蛾ニ因ル患者ヲ實驗スル機會ニ遭遇セリ。

本科外來ヲ訪ヒタル患者ノ症狀ハ、先ニ大野氏ノ發表セル論文及ビ橋本、萩原兩氏ノ論文等ニ記載サレタル症狀ニ一致シ、患者ノ言ヘル毒蛾ナルモノモ亦極メテ相似タル點アリ。ヨリテ患者ニ容器ヲ托シテ該毒蛾ヲ送付サレムコトヲ求メシニ、二三日後ニ約ノ如ク患者ヨリ蛾ヲ送付シ來レリ。就テ見ルニ形態、色調、鱗粉等全ク大野、橋本、萩原氏等ノ研究セルモノト一致セリ。即チ本毒蛾ハ *Euproctis flavo-premmer* ナルコトヲ知り、余等又本毒蛾ニ就キテ小實驗ヲ試ミントセリ。

(379)

本毒蛾ニ因ル皮膚炎

患者。 島某。 魚料理業。 五十四歳。 大正十一年六月二十五日初診。

既往症。 生來健康ニシテ只十八歳ノトキ疥癬ヲ經過ス。 二十五歳ノトキ胃腸病ヲ經過セリ。 昨年ヨリ時々下肢ニ浮腫、感覺異常アリシモ、一ヶ月餘ニシテ治セリ。 本年五月下旬ヨリ又復同様ノ症状アリ。 斯クテ患者ハ上記ノ主訴ノモトニ本院内科ニ來リ慢性腎炎ノ診斷ヲ受ケ、序ニ本科外來ニ來リシモノニシテ、患者ハ六月二十六日夜室内ニ群來セル黄色ノ蛾ヲ追拂ヒ或ハ取捨テ、寢ニ就キシニ、翌朝ニ至リテ頸部、胸部、上膊等ニ小ナル紅色ノ丘疹散發シ、搔痒劇甚ナリ。 家族中同様ノ患者三人アリト、右ノ如キ主訴ニヨリテ本科外來ヲ訪ヒタルモノニシテ新シキ一症例ナリ。

現症。 體格、榮養共ニ可良ナル一男子、下肢ニ於テ輕微ノ浮腫アリ、他ニ身體外表ニ異常ヲ認メズ。

發疹ハ、頸部、上肢屈側、胸部、腹部ニ涉リテ散發セル、粟粒大乃至麻實大ノ稍々尖銳ナル紅色ノ丘疹ニシテ、周圍ニ紅暈ヲ有シ、密集シテ發疹セル所ハ紅暈互ニ癒合ス。 疹ノ發生ハ不規則ニシテ毛囊等ト一致スルコトナク、全ク不正ニ散發セリ。 間々頂點ニ血痂ヲ有スルモノアリ、所々ニ搔破セル痕跡ヲ止メ、搔痒ノ如何ニ甚シキカヲ推察シ得ベシ。 患者ハ昨年モ今回ノ如キ發疹アリシト云フ。

診斷。 毒蛾性皮膚炎。

療法。 患者ノ尤モ苦痛トセル劇甚ナル搔痒ヲ鎮メ、搔破等ニ依ル刺戟ヲ去ラシメントシ、「二%カルボールリニメント」ヲ投與ス。

經過。 患者ハ其後本科再來ニ來ラズ。 余等が大聖寺ニ實地調査ニ赴キテ本患者ヲ自宅ニ見タルハ、六月二十八日ニシテ此時ノ所見ハ、「カルボールリニメント」ノ應用ニヨリテ搔痒ハ大イニ輕減サレ、從ツテ搔破ノ如キ刺戟ハ漸次

除去サレタル結果トシテ症狀ハ輕快シツ、アリ。即チ丘疹ハ消失ニ傾キ、潮紅又大部分退色セリ。爾後ノ經過ハ又本患者ニ接スルノ機ナク不明ナリ。

自體實驗。余等ガ片山津ニ於テ毒蛾採集中及ビ其他種々本毒蛾ニ就テ作業中惹起セル皮膚炎ニ就テ記センニ。鱗粉附着後二乃至十分ニシテ瘙痒ヲ感ジ、漸次甚シクナリ、孤立セルモノハ小豆大ノ蕁麻疹發生シ、周圍ニハ廣キ紅暈アリ。更ニ外來ノ刺戟ヲ絶對ニ防止シテ放置セルニ漸次潮紅ハ退色シ、丘疹又其ノ大サヲ減ジテ遂ニ消失ス。此間約六乃至七時間ナリ。翌日試ミニ本丘疹ノ局所ヲ少シク搔破セルニ、潮紅來リ次デ丘疹來ル、放置セバ又漸次消失ス。斯クノ如ク約二三週日ニ涉リテ刺戟ヲ加フレバ即チ潮紅、丘疹ノ發現ヲ認メタリ。

時々適宜ニ搔破セルモノニアリテハ、瘙痒ハ搔破ニ從ヒテ益々其ノ度ヲ高メ、潮紅ハ益々甚シク、丘疹ハ漸次尖銳トナリテ消失スルコトナク固定シ、粟粒大乃至半米粒大トナリ、潮紅ハ縮小シテ狭キ紅暈トナリテ殘留ス。斯クテ放置スルニ漸次色ハ暗色調ヲ帶ビ來リテ四五日ニシテ丘疹先ヅ消失シ暗褐色ノ斑トナリ次デ之モ消失セリ、然レ其其後約一二週ニ涉リテ其部ヲ搔破スレバ又復潮紅、丘疹來リ、瘙痒ヲ感ズルモ、丘疹ハ少時ノ後消失セリ。

本症ハ勿論、手背、足趾ノ如キ皮膚ノ強固ナル所ヨリモ肘窩ノ如キ軟弱ナル所ニ於テ、症狀ハ殊ニ著明ナリトス。手掌、足趾ノ如キ厚キ表皮ヲ被レル部位ニ於テハ、余等二百ニ近キ症例ニ於テ僅ニ四五例ヲ認メタルノミ。

上記セル自體實驗ニヨル毒蛾性皮膚炎ノ經過ハ、甚シキ瘙痒ヲ堪ヘテ只研究的ニ時々輕度ノ搔破ヲ與ヘシモノナリ。一般患者殊ニ小學兒童ノ如キニアリテハ搔破スルコト甚シク、爲ニ其經過ヲシテ長カラシメ、症狀又重ク、三、四週日ニ涉リテ治セズ。此間濕疹ヲ併發シテ苦シム者又多シ。

本症ノ診斷、特徵及ビ鑑別診斷

本症ノ診斷ハ、下記ノ特徵ヲ考察セバ比較的容易ナルモノナリ。

一、時機ハ一定シテ毎年五月下旬ヨリ七月ニ涉リ即チ初夏新緑ノ候ニシテ、一時ニ發シ、一定地方ニ小流行ノ如ク來リ、該地方ニ本毒蛾ノ多數發生アリ。

二、部位ハ全身ニ來リ得ルモ後文記セル如ク、顔面、胸、腹、上肢、頸部等ニ來ルコト多シ。要スルニ鱗粉ノ附着シ易キ部位ニ好發スルモノトス。

三、發疹ハ一時ニ發生シ、漸次發疹スルコト決シテナシ、從ツテ新舊ノ發疹相混ズルガ如キコトナシ。

四、卒然トシテ痒感アリ、蕁麻疹ト潮紅ト共ニ來リ、搔破ニヨリテ固定セル尖銳紅色ノ丘疹トナリ、紅暈ヲ有ス。

五、搔痒ハ搔破ニヨリテ益々増惡ス。

六、一度消失セル所モ搔破ニヨリテ再發セシメ得ベシ。

七、經過ハ約三四週間ナリトス。

上記ノ特徴ヲ考慮セバ、診斷極メテ容易ナルモ二三稍々類似セル疾病ヲ擧グレバ、

疥癬。發疹ノ形狀ハ稍々相似タルモ、毒蛾性皮膚炎ニアリテハ發疹ハ最初蕁麻疹形ヲ呈シ、其ノ搔痒ハ夜間蕁温

ニヨリテ、高度トナルガ如キコトナク、蟲道ハ之ヲ發見シ得ズ。好發部位ヲ異ニシ、且ツ漸次其ノ發生局部ヲ擴大スルコトナク、新舊ノ發疹ヲ見ザルガ如キハ主要鑑別點トナシ得可シ。

急性濕疹。濕疹ノ如ク發疹多形ナラズ、且ツ散在性ニ發生シ、一度丘疹消失セル部ヲ、少シク搔破スルコトニヨ

リテ直チニ蕁麻疹様ニ再發シ、一定地方ニ限局シテ小流行ノ如ク發生スル點ヲ以テ、濕疹トハ容易ニ鑑別シ得可シ。

蕁麻疹。全身隨所ニ發生シ、發疹ハ遙ニ大ニシテ、痕跡ナク消退シ、後ニ丘疹ヲ遺殘スルガ如キコト無シ。

小兒蕁麻疹様苦癬。發疹ノ形相似タルモ本症ニアリテハ、其經過極メテ長ク、小兒ヲ犯シ、發生部位ヲ異ニシ、

時期ハ初夏ノミニ限局セザル等ノ點ヲ考慮セバ又迷フコトナキガ如シ。

大聖寺地方實地ノ調査

余等ハ前記患者ノ好意ニヨリテ得シ毒蛾ガ *Euproctis flava Bremer* ナルコトヲ知ルト同時ニ、發生地ノ實地ヲ調査セントシ、六月廿八日同地方ニ赴キタリ。

然ルニ同地方ニ於テ尤モ毒蛾ノ密集セリト云ハレシ大聖寺町ノ郊端ナル同停車場附近ハ、少數ノ蛾ヲ認ムルノミニシテ患者ノ語リシ如ク密集セル光景ヲ認メズ。發生後已ニ約一ヶ月ニ及ベル今日、發生時期ノ終末ニシテ蛾數ノ甚シク減少セルモノナリ。町内ニ入ルモ、蛾ヲ發見スルコト極メテ少シ。茲ニ於テ毒蛾採集ハ遂ニ不能ニ終リタレバ、患者ヲ調査セントシ、即チ警察署ニ調査上ノ便宜ヲ與ヘラレントヲ乞ヒテ小學校一、女學校一、機業場一ヲ視察シ他ニ余等便宜上町民ニ就キテ調査セリ。

同地方ハ昨年モ本毒蛾ノ發生アリシモノ、如ク、停車場職員ノ如キハ殆ド全部犯サレタリト云フ。然レ共、其ノ發生數ノ少ナカリシ爲、世人ノ注意ヲ引カズシテ經過セルモノナルベシ。十一年春ニ至リテ、製茶業者ガ茶葉採集時ニ茶ノ木ニ一種ノ毛蟲アリテ、之ニ觸レシモノハ、本毒蛾ニ因ルト同様ノ皮膚炎ヲ惹起セリ。故ニ或ハ本毛蟲ノ羽化シタルモノ、即チ本毒蛾ナル可シト、思考セル者多シ。余等本毛蟲ヲ見ザルヲ以テ、之ヲ論ジ得ザルモ、此ノ推考ノ適當ナルヲ、思ハシムルモノナリ。

余等ガ、大聖寺ニアリテ毒蛾患者調査中、目下片山津地方ニ多數ノ毒蛾存在スルヲ聞キ、大聖寺ヲ引上ゲ直チニ片山津ニ出張シ、同所ノ馬場巡查部長ノ好意ニ依リ、最モ毒蛾ノ密集セル所ヲ見ルニ、蛾ノ電燈下ニ亂飛セル狀、恰モ一大吹雪ノ如ク、壯觀ヨク筆舌ノ及ブ所ニ非ラズ。直チニ採集ヲ初メタリ。然ルニ注意ニ注意セルモ余等又全身ニ瘙痒ヲ來タシ、如何トモ爲ス能ハズ、旅宿ニ歸リ直チニ浴槽ニ投シ、衣服ヲ更メ、持參セルニ%カルポール、リニメント^トヲ塗布シ、漸ク瘙痒ヲ緩解セシメ得タリ。

夜間燈下ニ亂飛セル蛾ノ採集ハ、極メテ困難ナルヲ知り、翌日ニ至リ晝間樹木、家屋外壁、室内等アラユル物體ニ、

全部黄色トナレルマデニ、静止セル毒蛾ヲ採集セリ。之ハ極メテ容易ニシテ、且ツ鱗粉ヲ散ラスコト少ナク、短時間ニシテ、約千餘匹ノ毒蛾ヲ採集スルコトヲ得タリ。

蛾ノ通性トシテ、夜間飛來シ燈火ニ集ルモノニシテ、同地ノ如キ殆ド全部ガ、所謂、温泉宿ニシテ、從ツテ光々タル燈火ノ多キ所ニ、飛來セル無數ノ蛾ノタメニ同地人ノ被害ナキハ極メテ少ク、旅宿業者ノ如キハ、殆ド全部毒蛾ノ爲ニ皮膚炎ヲ起シ居レリ。

大聖寺町ニ於ケル患者狀況。 前述セルガ如ク、一汎町家ニ就テ見タル患者、錦城、京遠兩小學校、郡立江沼高等女學校、及ビ同町郊外ニアル日本絹織物株式會社等ニテ得タル患者ヲ見ルニ、其ノ發疹ノ狀態等皆前記セル症例ノ如シ。只其ノ發疹部位ヲ表示セバ、次表ノ如シ。

發疹部位 (錦城尋常高等小學校)

番號	年齡	發疹局所	番號	年齡	發疹局所
一	一一	左肘窩	一一	一五	頸部
二	一一	右肘窩	一二	一六	右側頸部、右上肢
三	一一	胸部	一三	一四	右上肢屈側、左側頸部
四	一三	顏面、胸部	一四	一四	左上肢屈側、左側頸部
五	一一	顏面、胸部	一五	一五	背部、兩上肢屈側
六	一五	頤部	一六	一一	顏面
七	一二	背部、胸部	一七	一二	顏面
八	一五	左肘窩、右肩胛部	一八	一三	胸部、兩上肢屈側
九	一五	右上肢屈側	一九	一三	背部、兩上肢屈側
一〇	一二	左上肢屈側	二〇	一二	左腋窩

京達尋常高等小學校

番號	年齡	發疹局所
一	一〇	左上肢屈側、右上肢伸側
二	一〇	胸部、背部
三九	八	頸部、兩上肢屈側
三八	一〇	頸部、左上肢屈側
三七	一二	顏面、頸部、兩上肢屈側
三六	一三	頸部、兩上肢屈側、胸部、腹部、兩上腿伸側
三五	一三	顏面、頸部、兩上肢屈側、胸部、腹部、兩上腿內側、膝、臍窩、背部
三四	一一	腹部
三三	一一	腹部
三二	一三	兩上肢屈、伸側
三一	一二	左上腿伸側
三〇	一一	左肩胛部
二九	一五	右肩胛部
二八	一四	左上肢屈側
二七	一四	右上肢屈側
二六	一五	右側頸部
二五	一二	臀部
二四	一四	腹部
二三	八	左胸部
二二	九	右上肢屈側
二一	一三	兩上肢屈側
四〇	一三	頸部、兩前膊、兩肘窩
四一	一三	頸部、肘窩
四二	一一	顏面、頸部、胸部、兩上腿
四三	一〇	兩上腿屈側
四四	八	頸部、兩上肢屈側
四五	一二	右上肢屈側
四六	九	右上肢屈側
四七	一三	顏面、頸部、胸部、兩上肢屈側、腋窩
四八	一四	頸部、胸部、腹部、兩上肢、兩腋窩
四九	一一	頸部、胸部、上肢屈側
五〇	八	頸部、上腿內側、兩上肢屈側
五一	八	頸部、上腿內側、兩上肢屈側
五二	一一	頸部、上腿內側
五三	九	頸部
五四	一一	胸部、背部、上肢屈側
五五	一一	頸部、兩上肢屈側
五六	一四	頸部、胸部、兩上肢屈側
五七	一四	手掌、兩上肢

原著 馬話、宮尾 大正十一年石川縣下ニ發生セル毒蛾ニ就テ

三	九	左側腹部	二七	八	顔面、兩肩胛部、胸部、背部、兩上肢屈側
四	一〇	左側腹部、臀部	二八	一一	頸部、左肩胛部
五	九	左上肢屈側	二九	一〇	頸部、胸部
六	一〇	顔面	三〇	一〇	頸部、胸部、背部、兩上肢屈側
七	一〇	頸部	三一	一一	頸部、上胸部
八	九	左側頸部	三二	一一	胸部、顔面、上胸部
九	九	左上肢屈側	三三	一一	胸部、左上肢屈側
一〇	八	背部	三四	一一	頸部、左肘窩
一一	九	頸部、顔面	三五	一三	頸部、兩肢屈側
一二	八	背部	三六	一三	背部、兩上肢屈側
一三	八	頸部	三七	一四	頸部、兩上肢屈側
一四	八	頸部	三八	一三	下頸部、兩上肢屈側
一五	九	背部、胸部	三九	一四	頸部、兩上肢屈側、胸部
一六	九	顔面	四〇	一四	下頸部
一七	九	全身、左手掌	四一	一四	頸部、兩上肢屈側
一八	九	胸部	四二	一四	頸部
一九	九	頸部	四三	一二	兩上肢屈側
二〇	九	顔面	四四	一二	兩上肢屈側
二一	九	左肩胛部	四五	一一	背部、兩上肢屈側、兩膝窩
二二	一〇	頸部	四六	一二	兩前膊屈側
二三	一〇	頸部	四七	一一	兩下腿、膝窩、上肢屈側
二四	八	顔面、兩上肢屈側、胸部、背部	四八	一一	側胸部、兩上肢屈側、背部
二五	八	兩上肢屈側、胸部、背部	四九	一一	頸部、左上肢屈側
二六	七	顔面、胸部、兩上肢屈側	五〇	一二	顔面、右上肢屈側

郡立江沼高等女學校

番號	五七	五六	五五	五四	五三	五二	五一
年齡	一〇	九	一〇	一〇	一〇	一一	一二
發疹局所	頸部	頸部、上肢屈側	右側胸部、背部、腹部	顏面	頸部、上肢屈側	頸部、上肢屈側、膝窩	顏面、頸部、胸部、腹部、背部、四肢屈伸側特ニ肘窩、膝窩
番號	六三	六二	六一	六〇	五九	五八	
年齡	八	九	八	八	九	九	
發疹局所	腹部	頸部	兩上腿內側、兩膝窩	顏面、上腿內側	上肢屈側	胸部、背部	

番號	一一	一二	一三	一四	一五	一六	一七	一八	一九	二〇	二一	二二	二三
年齡	一六	一七	一五	一六	一六	一六	一六	一七	一八	一九	二〇	二一	二二
發疹局所	項部	頸部、右上肢屈側、胸部	兩上肢屈側、	頸部、胸部、兩上肢屈側、腹部、下腿、全身倦怠感アリ	頸部、胸部、兩上肢屈側	頸部	前膊屈側、胸部、腹部、睡眠障害アリ	頸部、肩胛部、左胸部	全身、手掌、足趾	左上肢屈側、左上腿伸側	項部、右肘窩	兩下腿後面、兩上肢屈伸側	
番號	一三	一四	一五	一六	一七	一八	一九	二〇	二一	二二	二三		
年齡	一六	一七	一六	一六	一六	一五	一四	一五	一四	一三	一五	一三	
發疹局所	兩上肢屈側、頸部	兩上肢屈側、頸部	兩上肢屈側、頸部、兩手背部	頸部、上胸部	兩上肢屈側及伸側	左側頸部	項部	胸部	兩上肢屈側	顏面	頸部、胸部、兩上肢屈側		

大聖寺地方

番號	職業	年齡	性	局	所
一	料理	四〇	男	頸部、胸部、兩上肢屈側、腹股部、兩上肢伸側	
二	同	四五	女	頸部、胸部、兩上肢屈側、兩上肢伸側	
三	同	二五	男	頸部、兩前膊	
四	同	二二	女	頸部、胸部、兩上肢屈側	
五	宿屋	二二	男	兩上肢屈側	
六	同	四五	女	兩上肢屈側	
七	魚商	二八	男	胸部、兩上肢屈側	
八	同	二一	女	頸部、兩上肢屈側	
九	吳服	三一	男	右前膊後面	
一〇	醫師	三〇	男	胸部、兩上肢屈側	
一一	醫師	二五	女	右前膊	
一二	理髮	四八	男	頸部、兩上肢屈側	
一三	同	四五	女	頸部、胸部、背部、上肢屈側、手掌	
一四	同	二〇	男	頸部、背部、胸部、兩上肢屈側、手掌	
一五	同	二一	女	頸部、胸部、兩上肢	
一六	宿屋	四〇	女	頸部、胸部、兩上肢屈側	
一七	同	二一	女	頸部、胸部、兩上肢屈側、兩上肢伸側	
一八	教師	三〇	女	兩上肢屈側、腹部、兩上肢伸側	
一九	同	三二	女	頸部、胸部、兩上肢屈側	
二〇	同	三五	女	頸部、兩上肢屈側	
二一	同	三六	女	顔面	

日本絹織物株式會社

番號	年齡	性	局	所
一	一四	女	頸部、兩上肢屈側	
二	一八	女	頸部、兩上肢屈側、背部、胸部	
三	三九	女	頸部、兩上肢屈側、兩上肢伸側、背部	
四	四六	女	頸部、胸部、下肢伸屈側	
五	二八	男	頸部、胸部、兩上肢屈側、兩下肢伸屈側、背部	
六	一六	男	頸部、胸部、背部	
七	一五	男	頸部、胸部、兩上肢屈側	
八	一八	男	兩上肢屈側、背部、腹部、上肢	
九	三八	男	頸部、胸部、腹部、腋窩、上膊	
一〇	二六	男	頸部、胸部、背部、兩上肢屈側	
一一	一四	女	右側頸部、兩前膊屈側	
一二	一四	女	左側頸部、上胸部、兩肘窩、項部	

局所	患者數	百分率	局所	患者數	百分率
上肢屈側	一一一	六〇・七	膝窩	五	
頸部	八九	四八・六	手	五	
胸部	五六	三〇・六	項部	五	
背部	二九	一五・八	下脛	四	
顔面	二六	一四・二	腋窩	三	
腹部	二一	一一・四	臀部	二	
上肢伸側	一九	一〇・四	膝蓋	一	
上肢伸側	九	四・九	足	一	
下肢伸側	七	以下略ス	手背	一	
肩胛部	六		患者總數	一八三名	

1、好發部位。

蛾ノ通有性ナル、燈火ニ飛來スルコトニヨリテ、普通民家ニアリテハ料理業、理髮業、呉服店等ノ如キ、燈火多ク、光度ノ大ナル所ニ、多數飛來シ、從ツテ其ノ被害度ノ多キ事モ亦推察スルニ難カラズ。同町郊外ニアル大聖寺驛ノ如キハ稻田中ニアリテ、燈火多ク最モ蛾ノ群集セル所ナリ。驛員ノ如キモ、昨年モ本年モ共ニ、全員罹患セリト云フ。余等ノ調査セル前掲ノ症例ニツキ二三ノ點ヲ概括スレバ次ノ如シ。

一三	一四	女	兩上肢屈側、頸部、上胸部	一七	男	頸部、胸部、腹部、背部、兩上肢屈側
一四	一四	女	兩上肢屈側、頸部、上胸部	二四	男	頸部、胸部、兩上肢屈側
一五	五〇	女	兩上肢屈側、頸部、兩上脛伸側	一八	男	頸部、胸部、兩上肢屈側
一六	四一	女	頸部、胸部、腹部、兩上脛伸側、背部、兩上肢屈側	一九	男	頸部、背部、兩上肢屈側

本表ニ依リテ見レバ、上肢屈側、頸部、胸部等ハ、之ヲ好發部位ト認ムルコトヲ得ルガ如シ。

手掌及ビ足蹠ノ如キ、表皮層ノ極メテ厚キ所ニアリテハ、棘針ノ刺入ノ困難ナルト、且ツ一定ノ深サニマデ、達スルコトノ極メテ難事タルニヨリテ、發疹ノ少キモノト認メ得可シ。

然レドモ、本表ニ於テ手掌ノ比較的多數ナルハ、是等五名ノ患者ニアリテハ、毒蛾ヲ手ヲ以テ握リ殺セルモノニシテ、一名ノ足蹠ニ發疹セルモノハ、跣足ニテ踏ミ殺セルニ因ルモノナリ。

2、好發部位ノ發生原因。上肢屈側、頸部、胸部、腹部等ニ多キハ、主トシテ衣服ノ關係ニヨルモノナラン、即チ

頸部、胸部ニ多キハ時恰モ炎熱ノ期節ニシテ、半バ衣服外ニ露出セルガ爲ナリトス。

又上肢ニ多キハ、蛾ヲ追ハントシテ、其ノ右往左往ニ亂飛セル時ニ、蛾體ヲ離レテ塵埃ノ如ク空中ニ飛散スル棘

針ニ觸レ易キニヨルナル可シ。

3、本症ノ罹患率。本毒蛾發生ノ多少、及ビ燈火數ニヨリテ異ニス可キモ大聖寺ノ二小學校ニ於テ見ルニ、

錦城尋高小學校ニ於ケル患兒數

學年	尋一	二	三	四	五	六	高一	二	計
兒數	九六	一〇七	一〇五	九〇	一〇八	一〇六	八五	六三	七六〇
十年度患兒數	一	一〇	六	四	五	三	二	七	四八
十一年度患兒數	一二	一六	一一	八	二五	二〇	一〇	二四	一二六
%									一六・六

本表ニ於ケル兒童數ハ十一年度ノ在籍數ナルガ故ニ其百分率ハ十一年度患兒數ニヨリテ得タル、十一年度罹患率ナリ。

京達尋高小學校ニ於ケル患兒數

學年	尋一	二	三	四	五	六	高一	二	計
十年 度 兒 數	一一三	八九	九六	七八	七七	八八	四九	卒業後ニシテ不明	五九〇
十年 度 患 兒 數	七	七	四	二	三	七	五	同	三二
十年 度 %									
十一年 度 兒 數	九二	一〇七	八八	九三	七八	八一	五二		六三五
十一年 度 患 兒 數	一〇	一七	一七	二八	一九	一八	九		二二三
十一年 度 %									一九・三

錦城校ハ男子ヲ、京達校ハ男子ヲ、京達校ハ女子兒童ヲノミ教育シツ、アリ、錦城校十年 度ノ在學數ヲ得ザリシハ殘念ナルモ京達校ニ就テ見ルニ十一年 度ニ比シ十年 度ハ約四分ノ一ナリ、之レ十年 度ニ於テ世人ノ注意ヲ引カザリシ原因ナル可シ、十一年 度ニ於テ兩小學校共ニ約二〇・〇%ナル數ヲ得タリ、以テ本年度ニ於ケル、罹患率ト認メ得ベケンカ。

4、豫防法。直接蛾體ニフレタル場合ハ勿論、多數ノ蛾ガ亂飛スル所ハ、蛾體ヨリ飛散スル鱗粉ガ直接皮膚ニ附着シ、又ハ衣服ニ附着セルモノガ運動ニヨリテ、皮膚面ニ達スルモノトス。故ニ鱗粉ガ衣服又ハ皮膚ニ附着セリト思考シタルトキ、及ビ既ニ搔痒ヲ感ジタル後ト雖モ直チニ入湯シ全身ニ涉リテ充分ニ附着セル鱗粉ヲ洗ヒ落スヲ可トス。又衣服ハ可及的能ク振拂ヒ、若クハ刷毛ヲ以テ清除スルヲ要ス。

搔破等ノ刺戟ガ、豫防上及ビ治療上ニ於テモ甚シク不良ノ影響ヲ來スモノナルハ、余ノ症例ニ於テ、之ヲ見ル可ク、又一汎患者ニアリテモ局所ノ甚シク高度ニ犯サレタルハ、搔痕ノ甚ダ多キヲ認ム。全身ニ發疹セルモノハ、直接蛾其モノ、飛來ニヨリテ、發疹セルモノハ少數ニシテ、其大多數ハ毒蛾ニフレタル衣服ヲ其儘着用シタルモノナリトス。

5、經過。本症ハ、其ノ發疹局所ノ廣狹ニヨリテ、經過日數ニ差アリ、極メテ狹小ナルモノニアリテハ其棘針附着數ノ少ナキニヨルモノナランカ、痒感少ナク從ツテ外來刺戟少ナク、早キハ約一週日ニシテ、自然治癒ヲナセルモノアリ。サレド大多數ニ於テハ、局所ハ可ナリ廣ク痒感又大ニシテ、從ツテ搔破セバ從ツテ痒感來リ、丘疹ハ血痂ヲ有スルニ至ル、斯クテ其ノ經過ハ延長シ、約一ヶ月ニ及ブ。加療セザルモノニアリテハ各個人ノ、注意如何ハ其經過ニ可ナリノ影響ヲ及ボスモノナリ。

毒 蛾

本毒蛾ハ先ニ大野氏、橋本、萩原氏等ニヨリテ、報告サレタルモノト同一ニシテ、學名 *Empoetis flava* Bremer ニシテ、鱗翅目 *Lepidoptera* 亞目、蠶蛾類 *Bombyxinae* 第二毒蛾科 *Liparidae* ニ屬スル橙黃色ノ小蛾ニシテ、體形ハ蠶蛾ヨリモ稍々小ニシテ、雄ハ雌ヨリモ稍々小ナリ。前翅ハ後翅ヨリ大ニシテ、遊離端近ク「く」字形ノ黑色紋アリ、其外縁近ク二個ノ黑點アリ、後翅ハ紋理ナク色稍々淡シ。前後翅共ニ周縁ニハ比較的長キ鱗毛ヲ有ス。多數採集セルモノノ中ニハ、多少ノ度ニ於テ其ノ紋理ニ異形ヲ呈セルモノアリ。

鱗粉。本蛾ノ有スル鱗粉ハ數種ノ形態アリ、菊花瓣ノ如キ形ニシテ一端ハ廣ク六乃至十二ノ鋸齒狀凹凸アリ、他端ハ狹小ニシテ本端ニテ附着シ、縦ニ走レル數十條ノ脉線ヲ有スルモノ、細長ニシテ兩端共鈍端ニ終リ、恰モ兩頭ノ消息子ノ如キ形狀ノモノ等アリ。又恰モ曲玉ノ如ク輕度ニ彎曲シ、尖端ハ尖銳ニ終リ、附着端ニ向ヒ漸次其ノ太サヲ増セルモノ、前後翅ノ後端ニ一定距離ヲ以テ規則的ニ一列ニ排列セリ。

棘針。之ハ極メテ多數ニ蛾體特ニ其ノ尾端ニ、總狀ヲナシテ而モ規則正シク排列セルモノニシテ、附着端ハ極メテ鋭ク、遊離端ニ向ヒテ漸次其ノ太サヲ増加シ、三叉狀ニ分岐セル末端ニ終ル。本棘針ハ其ノ側面ニ、極メテ細キ側棘ヲ有シ方向ヲ遊離端ニ向ケ、斜ニ附着シ類黃色ヲ呈ス、又棘針ノ中央部、又ハ先端ニ近ク恰モ、空洞狀ノ強ク光線

ヲ屈折スル部分アリ、長サハ棘針ノ約三分ノ一位ノモノ或ハ其ノ長サ極メテ短キ點狀ノモノ、多數連續セルアリ。之ヲ要スルニ、其ノ空洞狀物ノ形ハ種々ナリ。而シテ全部ノ棘針ガ斯ル空洞狀物ヲ有スルモノニ非ラズシテ、全然斯ル物ヲ有セザル棘針モアリ。

本空洞狀物ニ就キテ、之ヲ顯微鏡下ニ檢スルニ、空洞狀物ハ棘針表面ニ於ケル變化ニ非ラズシテ棘針體內ニ存スルモノト信ズ。而シテ此ノ空洞狀部ハ棘針ノ一端、或ハ兩端ニ向ヒテ管狀ノ連絡ヲ有スルモノトハ認め難シ。

余等ハ棘針ヲ無數ニ附着スル蛾ノ尾端部ニ於テ、棘針ノ横斷標本ヲ作り、之ヲ顯微鏡下ニ檢スルニ、該空洞狀部ハ棘針ノ中心部ニ存シ、其横斷面ハ輪狀ヲナセルヲ確認シ得タリ。

有毒物質ノ存否ニ關シテハ、之ヲ文獻ニ求ムルニ、毒蛾又ハ幼蟲ト棘針トノ關係ニ就テ、タイザ―氏ハ本種ニ近キ *Euproctis chrysoaria* ニ就キテ、詳細ニ研究セラレタリ。其ノ記載ニヨレバ、棘針ハ乳突起上ニアリ、之ノ下層ニ表皮アリ、其下ニ毒素分泌細胞アリテ、表皮ノ所々ニ細孔アリ、本孔ヲ通ジテ分泌サレタル毒素ハ、棘針ニ達スルモノナリト云フ。長野氏ノ如キモ *Euproctis conspersa* ニ於テモ、毒腺ニ連絡シ、棘針自身モ亦中空ナリト言ヘリ。其他多クノ人々ガ毒素分泌細胞ノ存在ヲ肯定セルモ多クハ其ノ幼蟲ニ關シテ、研究セルモノナリ。

余等本毒蛾尾端ノ組織標本ニ於テ見ルニ、尤モ外表ニ乳突起アリテ、之ニ棘針ハ其ノ尖銳端ヲ以テ附着シ、次ニ表皮層アリ、表皮層ノ下ハ極メテ粗雜ナル結締織ニシテ、特殊ナル細胞ハ認め難カリキ。

反應物質。本毒蛾ニヨル皮膚炎ハ、棘針ノ皮内刺入ニ依ルモノナルハ明カニシテ、之ニ關シテハ、大野、橋本、萩原氏等詳細ナル研究ヲ報告サレタリ。本棘針ガ毒素ヲ有スルカ又ハ單ニ其機械的刺戟ニ因ルカハ、從來論争ノアル所ニシテタイザ―、ケフアルト氏ノ如キハ毒素分泌細胞ヲ認め且ツ棘刺ヲ「メチーレン、ブラウ」中ニ浸シ檢鏡セルニ、尖端ヨリ漸次浸潤シ染色セラル、ノ事實ニヨリテ導管ノ存在ヲ肯定シ、又人血液中ニ投ズレバ、少時ノ後ニ白血球集合ヲ認めタリ。之レ毒素ノ作用ニヨルモノナリト斷ゼルモ、余等ハ本毒蛾棘針ヲ血中ニ投ゼルモ、結果ハ陰性ニ終レリ。

毒素存否ニ關スル實驗的研究

、卵及棘針ヲ原形ノ儘ニ於ケル浸出液ニ就テ行ヘル動物實驗。

本實驗ハ摘出セル、卵及ビ棘針ヲ原形ノマ、ニ於テ、「グリセリン」、「アルコール」、「エーテル」、「クロ、フォルム」ニテ室溫ニ於テ浸出シ、最モ緻密ナル濾紙ヲ以テ二回濾過シ、棘針ヲ完全ニ除去シ、得タル濾液ヲ以テ行ヘリ。實驗方法ハ「モルモット」ノ下腹部ヲ剃毛シ、一側ヲ本試驗ニ、對側ヲ對照トシテ、皮膚接種ノ形ニ於テ行ヒ、刀ハ各浸出液毎ニ別個ノモノヲ用ヒ、初メニ對照試驗ヲ行ヒ次ニ本試驗ヲ行ヒ以テ對照試驗ニ浸出液ノ混入ヲ防ゲリ。

A、卵浸出液

番號	体温	浸出液	本試驗	對照
1	七、〇	グリセリン	腫脹、浸潤等ナシ	腫脹、浸潤等ナシ
2	七、六	70%アルコール	同上	同上
3	六、八	エーテル	同上	同上
4	七、八	エーテル	同上	同上
5	八、六	クロ、フォルム	同上	同上
6	八、八	96%アルコール	同上	同上

B、棘針浸出液

番號	体温	浸出液	本試驗	對照
1	六、八	グリセリン	約十分後ニシテ腫脹ヲ認メシモ對照ニ比シテ大差ナシ	多少ノ腫脹アリ
2	七、六	70%アルコール	多少ノ浸潤、腫脹アリ	多少ノ浸潤腫脹アリ

5	4	3
七、八	八、八	八、〇
96% アルコール	クロ、フォルム	エーテル
同上	同上	腫脹浸潤等ナシ
同上	同上	同上

II、棘針ヲ研磨シ浸出シ得タル濾液ヲ以テセル人體實驗。

前記實驗ニ於テ、棘針及ビ卵ヲ原形ノ儘ニ於テ、浸出セルモノニテハ、少ナクモ動物實驗ニ於テハ、何等反應炎症ヲ起サザルヲ知レリ。然レ共、棘針ノ一部ニ於テ認メラル、空洞内ニ毒素ノ含有サレ有ラザルカ否カハ、之ヲ前實驗ニ於テ、明カニナスヲ得ズ、浸出後ノ棘針ヲ鏡下ニ檢スルモ、何等外形ニ變化ナク又、空洞ノ形態、光線ノ屈折等モ變化ヲ認メラレズ、之ニヨリテ見ルモ、果シテ浸出ニ用ヒシ各液ガ充分ニ空洞内ニモ浸入シ得タルカハ疑問トセザルヲ得ズ。

余等ハ更ニ進ンデ、棘針ヲ粉碎シ、浸出液ヲシテ十分ニ全體ニ亙リ作用セシメント企圖セリ。即チ棘針ヲ硝子乳鉢ニテ能ク研磨シ、之ヲ鏡下ニ檢シテ全ク粉末狀ヲ呈スルニ至ラシメ、次デ蒸餾水、〇・八五%食鹽水、「グリセリン」、「九六%アルコール」、「エーテル」、「クロ、フォルム」ニ室温ニテ浸出シ、之ヲ紙質極メテ緻密ナル濾紙ニテ濾過スルコト二回、之ノ濾液ヲ以テ人體接種試驗ヲ行ヒタリ。

斯ノ如ク注意シテ濾過セルハ、接種ニ際シ棘針碎片ヲ同時ニ皮内ニ移入セシメ、機械的ニ作用スルヲ避ケンガ爲ナリトス。

方法ハ前膊屈側ヲ選ビ、恰モ種痘ノ如ク、皮膚切創ヲ作り刀腹ヲ以テ浸出液ヲ擦入セリ。前動物實驗時ト同一ノ注意ヲ拂ヒ先ニ對照ヲ、次ニ本試驗ヲ行フ。

第一 例

馬 〇 某、三十一歳、男。

原著 馬詰、宮尾 大正十一年石川縣下ニ發生セル毒蛾ニ就テ

蒸餾水浸出液	時間	本 試 驗		
		浮腫ノ大サ	潮紅ノ大サ	對 照
五分後	五分後	〇、三 c.m.	一、〇 c.m.	浮腫ノ大サ 潮紅ノ大サ 切線ニ沿ヒテ多 少アリ
十分後	十分後	〇、五 c.m.	三、〇 c.m.	同
二十分後	二十分後	一、五 c.m.	四、五 c.m.	同
三十分後	三十分後	一、五 c.m.	多少退色ス	同
四十分後	四十分後	一、七 c.m.	退色ス	消失
五十分後	五十分後	一、五 c.m.		消失
七十分後	七十分後	一、七 c.m.		消失
九十分後	九十分後	一、〇 c.m.		消失
二時間後	二時間後	一、〇 c.m.		消失
二時間半後	二時間半後	一、〇 c.m.		消失
三時間後	三時間後	同		消失
五分後	五分後	〇、五 c.m.	多少アリ	ナシ
十分後	十分後	二、〇 c.m.	四、〇 c.m.	同
二十分後	二十分後	同	同	同
三十分後	三十分後	同	同	同
四十分後	四十分後	同 稍低クナル	退色セントス	同
六十分後	六十分後	一、五 c.m. 同	同	同
八十分後	八十分後	同 甚シク低シ	三、〇 c.m. 退色大 ナリ	同
九十分後	九十分後	同	退色	同
一〇分後	一〇分後	同		同

斯クシテ約四時間以上ノ後丘疹消失ス

原著 馬詰、宮尾、大正十一年石川縣下ニ發生セル毒蛾ニ就テ

一 二〇一

96% アルコール	七十分後	消失	消失	多少アリ	多少アリ	多少アリ
	五分後	ナシ	多少アリ	多少アリ	多少アリ	多少アリ
	二十分後	1/3 c.m.	二、五 c.m.	同	同	二、五 c.m.
	四十分後	同	退色セントス	同	同	同
	六十分後	縮小ス	同	同	同	退色ス
	七十分後	境界不明	退色ス	消失	消失	退色ス
	一〇分後	消失				

第二例

宮〇某、二十七歳、男。

浸出液	時間後	本試	潮紅ノ大サ	對照	試験
グリセリン浸出液	五分後	浮腫ノ大サ	ナシ	浮腫ノ大サ	潮紅ノ大サ
	十分後	一、〇 c.m.	ナシ	〇、五 c.m.	同
	二十分後	一、五 c.m.	三、〇 c.m.	同	同
	三十分後	同	四、〇 c.m.	同	同
	八十分後	同	同、漸次退色	同、漸次消失	同
	二時間後	同、境界不明	消失		
	三時間後	消失			
クロ、フォルム アルコール エーテル		多少腫起シタルモ 約廿分後ニ消失ス	ナシ	多少腫起セルモ約 廿分後ニ消失ス	ナシ

第三例 竹○某、女、十九歳。

浸出液	時間後	本試		對照		本試	
		浮腫ノ大サ	潮紅ノ大サ	浮腫ノ大サ	潮紅ノ大サ	浮腫ノ大サ	潮紅ノ大サ
○、八五%食鹽水 浸出液	五分後	○、七 c.m.	二、五 c.m.	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ
	十分後	○、五 c.m. 強	同	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ
	二十分後	一、〇 c.m.	退色ス	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ
	四十分後	觸診シ得ルノミ	退色ス	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ
	一五〇分後	消失	退色セントス	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ
蒸留水浸出液	五分後	○、五 c.m.	二、五 c.m.	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ
	十分後	一、〇 c.m.	同	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ
	二十分後	同	退色セントス	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ
	四十分後	觸診シ得ルノミ	退色セントス	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ
	一五〇分後	消失	退色セントス	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ

第四例 二○某、男、五十七歳。

浸出液	時間後	本試		對照		本試	
		浮腫ノ大サ	潮紅ノ大サ	浮腫ノ大サ	潮紅ノ大サ	浮腫ノ大サ	潮紅ノ大サ
○、八五%食鹽水 浸出液	二十分後	二、〇 c.m.	五、〇 c.m.	少シクアリ	二、五 c.m.	二、五 c.m.	二、五 c.m.
	三十分後	同	同	同	二、〇 c.m.	二、〇 c.m.	二、〇 c.m.
	四十分後	一、五 c.m.	退色	消失	一、五 c.m.	一、五 c.m.	一、五 c.m.
	三十分後	同	同	多少アリ	一、〇 c.m.	一、〇 c.m.	一、〇 c.m.
蒸留水浸出液	二十分後	一、〇 c.m. 強	五、〇 c.m.	多少アリ	一、五 c.m.	一、五 c.m.	一、五 c.m.
	三十分後	同	同	同	一、〇 c.m.	一、〇 c.m.	一、〇 c.m.
	四十分後	同	同	同	一、〇 c.m.	一、〇 c.m.	一、〇 c.m.
	三十分後	同	同	同	一、〇 c.m.	一、〇 c.m.	一、〇 c.m.

原著 馬詰、宮尾 大正十一年石川縣下ニ發生セル毒蛾ニ就テ

原著 馬詰、宮尾 大正十一年石川縣下ニ發生セル毒蛾ニ就テ

後	四十分後 一三〇分	消失	四、〇 c.m.	消失	一、〇 c.m.
			退色		退色

備考 本例ニ於テハ食鹽水浸出液ニ於テモ二時間半後ニ於テ消失、退色セリ。

第五例 花 ○ 某、男、三十八歲。

本例ニアリテハ、食鹽水、蒸餾水浸出液共ニ何等ノ反應ヲ呈セザリキ。

第六例 竹 ○ 某、女、二十歲。

本例ニアリテハ、二種ノ浸出液共ニ接種當日ハ何等ノ反應ナク、約二十四時間後ニ至リテ、本試験ハ約〇五 c.m.大ノ浮腫トシテ發現セリ。

本實驗ニヨル考察

本實驗ニヨレバ、食鹽水、蒸餾水、及ビ「グリセリン」ヲ以テ、浸出セルモノニ於テ、著明ノ反應ヲ認メタリ。他ノ「クロ、フオルム」、「エーテル」、「アルコール」ニ於テハ其ノ反應ハ殆ド認ムル能ハザル程度ノモノナリキ。是ニヨリテ觀ルニ棘針中ニ多少ノ、毒性アル物質ヲ有シ、「グリセリン」、餾水、食鹽水ニヨリテ最モ能ク、浸出セララル、コトヲ知り得タリ。

III、棘針原形ニ於ケル「グリセリン」浸出液ヲ以テセル人體實驗

茲ニ於テ、棘針原形ノ儘ニテ浸出セルモノガ、動物實驗上陰性ニ終ルハ、動物ナルガ故ニ非ラザルカラ疑ヒ、前實驗ニ供セル「グリセリン」浸出液ヲ以テ、更ニ人體實驗ヲ行ヘリ。

馬 ○ 某、男、三十一歲。

原著 馬詰、宮尾、大正十一年石川縣下ニ發生セル毒蛾ニ就テ

時間後	本 試 驗		對 照 試 驗	
	浮腫	潮紅	浮腫	潮紅
五分後	多少アリ	多少アリ	ナシ	ナシ
十分後	〇、五 c.u.	三、〇 c.m.	僅少ニアリ	多少アリ
三十分後	同	同	同	二、〇 c.u.
五十分後	同	退色シ初ム	少シ低クナル	退色シ始ム
七十分後	少シ低クナル	甚シク退色ス	消失	消失
八十分後	境界不明	退色ス	消失	消失
一〇〇分後	消失	消失	消失	消失

本實驗ニヨレバ、對照ニ比シ、其丘疹ノ殘留セル時間ノ長キヲ見、丘疹ノ大サモ亦少シク大ナリシナリ。是ニ由リテ觀レバ、棘針ノ表面ニモ微量ノ有毒物體ノ附着スルアリテ「グリセリン」ニ移行セルモノ、如シ、然レ共其ノ量極メテ微少ナルガ爲ニ、人體ニ比シテ、感受性ノ弱キ動物ニ對シテハ、陰性ニ終リタルモノナル可シ。

IV、他種類ノ蛾ヲ以テセル對照試驗

更ニ、余等ハ之等反應ガ本毒蛾ニ於テノミ特有ニシテ他ノ無害ナル蛾ニ於テハ、斯ル反應ヲ來サルヤ否ヤヲ知ラント欲シテ之等ノ蛾ノ鱗粉ヲ取り、同一操作ノモトニ之ヲ研磨、粉碎シ、同一條件ノモトニ同一液ヲ以テ浸出濾過シ得タル液ニ就テ人體試驗ヲ行ヒタリ。

第一 例 宮 ○ 某、 男。

浸出液	本 試 驗	對 照 試 驗
グリセリン	十分後ニ至リ、接種部粟粒大ニ腫起シ、卅分後ニ浮腫小トナリ、四十分後ニ至リ、全ク消失ス、周圍ニ發赤ナク、自覺症又何モナシ	十分後ニ粟粒大ニ腫起シ、四十分後ニ全ク消失ス、自覺症ナシ

原著 馬詰、宮尾、大正十一年石川縣下ニ發生セル毒蛾ニ就テ

クロホルム アルコール エーテル	接種部多少腫起セルモ、四五分ニシテ消失ス	本試験ノ如シ
------------------------	----------------------	--------

第二例 梅〇某、女、二十五歳。

浸出液	本試験	對照試験
グリセリン	十五分後、半米粒大ニ腫脹シ、三十分後ニ浮腫漸次小トナリ且境界不明、四十分後ニ全ク消失ス、周圍ニ發赤ナク、自覺症ナシ	本試験ノ如シ
クロロフォルム アルコール エーテル	二十分後粟粒大ニ腫起シ卅分後ニ消失ス	本試験ノ如シ

第三例 竹〇某、女。

浸出液	本試験	對照試験
グリセリン	十分後、半米粒大ニ腫脹シ三十分後、境界不明トナリ、一時間半後ニ全ク消失、發赤等ナシ	本試験ノ如シ
アルコール エーテル クロロフォルム	十五分後ニ粟粒大ニ腫起シ四十分後ニ消失ス	本試験ノ如シ

此對照實驗ニヨリテ見レバ、前表ノ如キ毒蛾棘針浸出液ニ因ル反應ハ、或ル異種蛋白等ニ基因スルニ非ラズシテ、毒蛾ノ棘針中ノ毒性物質ニ因リ發起セルモノナラント推定シ得ベシ。

本實驗ヨリシテ臨床的症狀ノ考察ヲ一言スレバ、本毒蛾ニヨル症狀ハ棘針ノ皮内刺入ニヨル機械的刺戟ハ、之ヲ勿論度外シ得ザルモ、又一面棘針ノ有スル、或ル有毒物質ノ作用ニヨリテ、發起スルモノナルコトハ、余等ノ實驗ニ依リテ、之ヲ證明シ得タリト信ズ。

- 一、本毒蛾ハ毎年六、七月即チ初夏ノ候ニ著シク發現ス。
 - 二、毒蛾ハ一地方ニ、流行的ニ發生シ、好ンデ海岸地方ニ沿ヒテ浸襲スルガ如シ。
 - 三、好發部位ハ、上肢、頸、胸、腹等ナリ。
 - 四、發疹ハ短キハ一二週間、長クモ三四週間ニシテ治癒ス、治療法トシテハ、單ニ鎮痒劑ヲ塗布スレバ可ナリ。
 - 五、本毒蛾ノ棘針中ニハ、其針體內ニ空洞ヲ有スルモノアリ、棘針ノ横斷面ニ於テ殊ニ明瞭ニ之ヲ認メ得タリ。
 - 六、棘針空洞内又ハ實質中ニハ「グリセリン」、餹水、食鹽水等ニヨリテ浸出セラレ、人體ニ對シテ有毒ニ作用スル物質ヲ有ス。
 - 七、前記有毒物質ハ、微量ナルモ棘針表面ニモ、附着セルモノ、如シ。
- 終リニ終ミ、本實驗ニ關シテ終始懇篤ナル指導ヲ賜リシ恩師土肥醫長ニ深甚ノ謝意ヲ表シ、又大聖寺地方ニ赴キキ時ニ調査上多大ノ便宜ヲ與ヘラレタル森田警察署長ヲ初メ署員各位、及ビ錦城、京達、江沼高女校ノ教職員各位、日本絹紡株式會社ノ各位、片山津巡查派出所長ノ諸氏、及ビ終始變ラザル援助ヲ與ヘラレタル皮膚科教室員諸氏ニ對シ、感謝ノ意ヲ表ス。

參 考 書 目

- ① 大野武司、新潟縣下ニ發生セル毒蛾ノ研究、皮膚科及泌尿器科雜誌第一七卷第七號。
- ② 橋本、萩原、大正十年千葉縣下ニ發生セン毒蛾並毒蛾性皮膚炎ニ就テ、皮膚科及泌尿器科雜誌第二十二卷第六號。
- ③ 三宅恒方、昆蟲學汎論下卷。
- ④ 動物學雜誌第二十八卷第三三四號。
- ⑤ 松村博士、大日本昆蟲學全書前卷。